

彩り鮮やかな節分料理に挑戦



滝根公民館事業の第4回生涯学習セミナーが1月18日、滝根保健センターで開かれました。料理をすることの楽しさを学ぶため開いたセミナーには15人の小学生が参加し、節分料理に挑戦しました。子どもたちは、包丁を上手に使い具材を切り分け、星形のハムやチーズなどを飾り付けたデコずしやスープ、鬼の顔に見立てて飾り付けたおにチョコパイなど4品を完成させました。家では野菜を食べないという子も、おいしそうにたくさん食べていました。料理の合間には、滝根おはなし会つくしんぼから節分にちなんだ絵本の読み聞かせプレゼントもあり、全員が楽しい時間を過ごしました。

色とりどりの団子に願いを込めて

小正月の年中行事「団子さし」が2月1日、市歴史民俗資料館で行われました。小学生を中心に29人の子どもたちが参加し、船引町警青さざなみボランティア会と船引町生活研究グループ協議会の皆さんのアドバイスを受けながら、みずの木の枝に紅白の団子をさし、鮮やかな色の付いた大判や米俵を模した縁起物の飾りをつり下げました。団子さしは初めての子どもたちが多く、みんな真剣な眼差しで取り組んでいました。きれいに飾られただんごの木は、まるで花が咲いたような感じになり、全員が五穀豊穡と一家繁栄を祈る伝統行事を楽しみました。

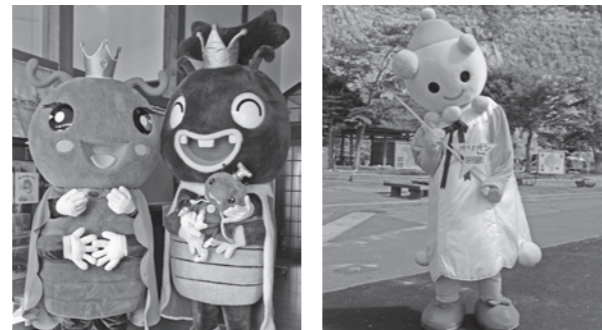


船引地区で「町区夜警」



船引町の中心市街地で、60年以上の伝統ある「町区夜警」が毎日、午後10時から午前0時30分まで行われ、地元の火災予防と地域の安全・安心に貢献しています。夜警は、市消防団船引地区隊の船引分団第1部と第2部が毎年行っている恒例行事。今年は昨年12月21日から始まり、3月20日までの90日間行われます。団員48人が16班に分かれ、毎晩3人一組で徒歩や消防車両で巡回します。徒歩の場合は拍子木を1点・1点・2点で打ち、半鐘を打ち鳴らしながら市街地を約1時間半から2時間かけ警戒に当たっています。

ゆるキャラに温かい応援を！



今やニュースやイベントなどに登場し、一躍注目されている「ゆるキャラ」。熊本県の「くまモン」や滋賀県彦根市の「ひこにゃん」などは、テレビや雑誌などメディアの露出も増え、活躍の場は全国へ広がっています。市では常葉町のカブトンやカブリン、カブっちのカブトンファミリー、滝根町のオリオンちゃんが、ゆるキャラとして各種イベントに登場し着々と人気を集めています。これからも、いろいろなイベントに参加して会場を盛り上げ、田村市の観光PRをしていきますので皆さんの応援をお願いします。

末永くお元気で 柳沼寅起さんに百歳賀寿



柳沼寅起さん(船引町芦沢)が、1月25日に満百歳を迎えられました。県から県知事賀寿と記念品、富塚市長から賀寿と祝金が贈られました。また、市社会福祉協議会、船引町老人クラブ連合会からは、賀寿と祝金が贈られました。寅起さんは、丁寧にお辞儀をしながら賀寿などを受けられていました。長寿の秘訣は、「体をよく動かすこと」とのことです。

常葉への思いを語り合う

福島・常葉会の通常総会が2月1日、土湯温泉の向滝旅館で開かれ、来賓者と会員、市関係者の19人が出席しました。総会では白岩康夫会長があいさつし、来賓祝辞の後、事業・収支の報告と26年度の事業・収支の計画が承認されました。その後に役員改選も行われました。終了後のパーティでは赤砂利の思い出話に花を咲かせ、時間がたつのを忘れて歓談しました。



落語・漫談で元気に！



北区長命会の幸せのつどい閉講式と第5回学習会「落語鑑賞会」が、1月9日に船引総合福祉センターで行われ、41人が参加しました。福島素人落語研究会の4人が日頃鍛錬された落語や漫談を流暢に披露し、経験談・昔の逸話などを面白おかしく、話してくれました。会員たちはユーモアな話に終始笑顔をみせるなど、落語と漫談を堪能しました。また、笑いが会員相互の親睦を深めていました。

氷の上でワイワイ



常葉公民館アソベンチャークラブのスケート教室と閉講式が1月18日、磐梯熱海スポーツパークで行われました。参加した36人は最初、郡山スケート場のインストラクターに安全な転び方を教えてもらいました。子どもたちはヘルメットを着用してリンクに入り、初め心もとない滑りをしていましたが、すぐに慣れて400mの広いコースを思い思いに滑れるようになりました。鬼ごっこをしたり、競走したりして、みんな汗をかくほどスケートを楽しんできました。最後に閉講式が行われ、一年の活動を締めくくりました。